



株主通信 第61期

[2023年4月1日～2024年3月31日]

2024年6月発行

CONTENTS

社長メッセージ	P2
業績ハイライト	P3
主な財務指標／株主還元	P4
Topics	P5
会社概要	P6

新たな成長戦略の策定により、2030年の 目指す姿の実現可能性をより高め、企業価値 の着実な向上に向け取り組んでまいります



このたび、代表取締役社長に就任した朝日崇文です。1964年の創業以来築き上げてきたウシオの経営基盤や強みを活かし、着実に成長を拡大させることで、持続的な企業価値向上を目指します。その実現に向けた新たな成長戦略(Revive Vision 2030)を2024年5月に公表しました。「Revive」には、「大きな変革をもって、目指す姿を実現する」という想いを込めています。

新成長戦略(Revive Vision 2030)

2023年5月に公表した中期経営計画(中計)の1年目である2024年3月期において、半導体及びフラットパネルディスプレイの市況悪化や競争環境の変化の影響で、当社の事業環境が大きく変容しました。2024年3月期は、期初計画に対して売上高は未達ながらも営業利益は達成できましたが、次期2025年3月期は、前期比減収減益と厳しい見通しとなっています。

このような環境変化を受け、中計の再検証を行った結果、より実現可能性の高い企業価値向上シナリオとすべく、2030年度を最終年度とする新成長戦略(Revive Vision 2030)を策定しました。

新成長戦略の概要

新成長戦略では、「経営効率を重要視した成長戦略」を方針としています。具体的には、成長可能性の高いIndustrial Process事業にリソースを集中させ着実な成長拡大を実現すること、利益“率”にこだわり施策を実行していくこと、成長投資と資本効率を両立させることを方針とし、2030年度までをPhaseⅠ(2024～2026年度)とPhaseⅡ(2027～2030年度)に分け、事業戦略と財務戦略を立案しています。

PhaseⅠでは、戦略分野の再定義による「事業ポートフォリオ変革」を実行し、ROE8%以上の達成と、早期のPBR1倍超の実現を目指します。PhaseⅡでは、PhaseⅠの成果を最大限に発揮し、事業を着実に成長させていくことで、ROE12%以上の達成を目指します。

計画の厳格なモニタリングを実施することで、実現可能性を高めてまいります。

事業戦略

主に2つの取り組みを進めてまいります。1つ目の「事業ポートフォリオ変革の実行」では、不採算事業へのてこ入れを実施します。成長実現のために規模を追いつけた結果、一部事業では非効率な状況が生じています。そのため、明確な事業評価による事業性の見極めを

進めるとともに、メリハリのある投資計画への見直しを行います。また、経営資源配分の最適化により、成長分野であるIndustrial Process事業へリソースや投資を集中させます。2つ目の「半導体アドバンストパッケージ事業の成長拡大」では、Industrial Process事業において、成長分野である半導体アドバンストパッケージ市場でのプレゼンス拡大に取り組みます。具体的には、2023年12月に発表したアブライドマテリアルズ社との業務提携を通じた強固な製品ラインアップの構築により、生成AIの進展に伴う半導体の進化に貢献することで、同市場におけるリーディングカンパニーを目指します。同市場に関連する露光装置は、2030年に向け高い成長率で拡大していく計画です。

財務戦略

課題であるROEやPBRの改善に向け、事業戦略とともに財務戦略も強化してまいります。具体的には、資本最適化を図るため、PhaseⅠでは自社株投資及び配当の拡大による資本の圧縮を進めます。自社株投資は3年間で500～600億円の実施を予定し、配当は年間で1株当たり70円の下限を設定する増配計画です。また、バランスシートマネジメントにおいて、成長投資を拡大しつつも、財務規律を重視した経営を推進し、かつ資産効率改善を進めるための取り組みも行っています。これらの戦略の実現により、新成長戦略の係数目標であるROE改善を進めてまいります。

ESG経営

新成長戦略では、引き続き事業成長とESG経営の両輪で、目標達成を推進します。2030年の目指す姿の実現に向けたマテリアリティ「5つの経営のフォーカス」で定めた非財務KPI目標を着実に達成していくほか、社内外のエンゲージメント向上による業績への貢献や、事業ポートフォリオ変革に沿った人財戦略に重点を置き、各施策を推進してまいります。

是非、今後のウシオにご期待ください。

代表取締役社長

朝日崇文

新成長戦略の詳細はこちらをご覧ください



業績ハイライト (2023年4月1日～2024年3月31日)

売上高 **1,794** 億円 (前期) 1,750 億円 営業利益 **129** 億円 (前期) 158 億円

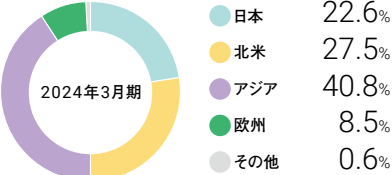
2024年3月期業績

売上高は、半導体等の市況悪化継続の影響によりIndustrial Process事業で減収の一方、部材不足の解消が進んだことによるデジタルシネマプロジェクターの販売増加及び円安効果でVisual Imaging事業で増収し、全体で前期比2.5%増収の1,794億円でした。営業利益は、増収したものの、製品ミックス変化や将来に向けた開発投資拡大により、全体で前期比18.2%減益の129億円でした。

2025年3月期業績見通し

売上高は、Industrial Process事業で上期中心に露光装置の販売が落ち込む影響や、改善傾向であったVisual Imaging事業でシネマ市場の一時的な停滞により販売が減少することから、前期比2.5%減収の1,750億円となる見通しです。営業利益は、減収影響に加え、特にIndustrial Process事業で一時的に露光装置の生産高が減少する影響や、次世代露光装置の先行投資を拡大させる計画のため、前期比61.5%減益の50億円となる見通しです。

地域別売上高構成比



	Industrial Process			Visual Imaging			Life Science			Photonics Solution			その他		
	2023.3	2024.3	2025.3 (見通し)	2023.3	2024.3	2025.3 (見通し)	2023.3	2024.3	2025.3 (見通し)	2023.3	2024.3	2025.3 (見通し)	2023.3	2024.3	2025.3 (見通し)
売上高 (億円)	894	821	790	689	805	780	56	52	50	92	102	115	17	13	15
セグメント利益・損失 (億円)	182	108	35	34	58	45	▲51	▲23	▲20	▲2	▲15	▲10	▲3	1	0

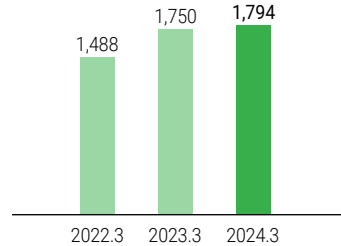
Industrial Process事業 半導体やフラットパネルディスプレイなどのエレクトロニクス分野が中心	主な製品 ▶ 露光用ランプ、OA用ランプ ▶ ステップ露光装置 ▶ ダイレクトイメージング露光装置	2024年3月期業績 減収減益	巣ごもり需要の一巡や、サーバーやパソコンなどの最終製品の市況悪化の影響により減収となりました。営業利益は、付加価値の高い製品の販売減少や将来を見据えた開発投資の拡大により利益率が悪化し減益となりました。
		2025年3月期業績見通し 減収減益	半導体市況は回復の兆しが見えつつも、露光装置の投資先送りの影響やEUV光源における稼働の減少影響により減収の見通しです。営業利益は、露光装置の一時的な生産高の減少に伴う影響や将来の成長を見据えた先行投資を拡大する影響もあり減益を見込んでいます。
Visual Imaging事業 映画館やアミューズメントパーク、イベントなどの映像演出が中心	主な製品 ▶ デジタルシネマプロジェクター ▶ 一般映像用プロジェクター ▶ 映像周辺機器	2024年3月期業績 増収増益	映画館での置き換え需要によるデジタルシネマプロジェクターの販売増加や一般映像分野での大型案件の検収に加え、円安による為替効果もあり増収となりました。営業利益は、仕入原価の正常化やRGBレーザープロジェクターの販売割合増加により利益率の改善が進み増益となりました。
		2025年3月期業績見通し 減収減益	デジタルシネマプロジェクターの置き換えニーズはあるものの、ハリウッドストライキや中国経済の悪化による投資意欲の一時的な減退や、映画館の稼働低下及びレーザー化によるプロジェクター用ランプの需要減少により減収の見通しです。営業利益は、原材料費の高騰影響もあり、減益を見込んでいます。
Life Science事業 環境衛生や医療分野向けに光源及び装置を展開	主な製品 ▶ 抗ウイルス・除菌技術「Care222®」搭載製品 ▶ 紫外線治療機器	2024年3月期業績 減収増益	環境衛生向け関連製品の販売が減少したことにより減収となりました。営業利益は、前期に計上した棚卸資産評価損の減少や投資抑制効果により増益となりました。
		2025年3月期業績見通し 減収増益	医療業界向けで需要は堅調に推移するものの、在庫調整の影響で減収の見通しです。営業利益は、投資案件の絞り込みや販管費等の削減による費用抑制効果で増益を見込んでいます。
Photonics Solution事業 幅広いアプリケーション向けに固体光源(LEDやLD)をデバイスからモジュールまで展開	主な製品 ▶ 固体光源(LED/LD) ▶ レーザーモジュール	2024年3月期業績 増収減益	レーザーモジュールの販売増加やM&A効果による売上高増加により増収となりました。営業利益は、M&Aによる販管費の増加や開発投資の拡大により減益となりました。
		2025年3月期業績見通し 増収増益	半導体やセンサー市場などの産業用途でフォトリソ技術を使ったアプリケーション需要が堅調に推移し増収の見通しです。営業利益は、開発投資案件の絞り込みによる費用抑制効果により増益を見込んでいます。

※ 2024年3月期より、事業セグメントを変更しています。 ※ 売上高は外部顧客への売上高を記載しています。 ※ 本資料では、切捨てによる億円単位で表記しています。

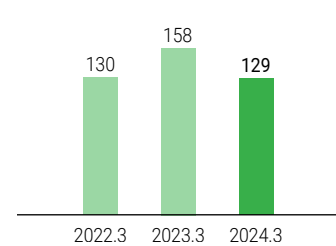
主な財務指標

売上高・損益の推移（億円）

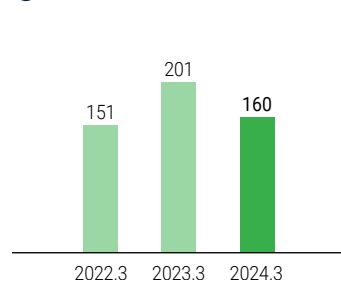
▶ 売上高



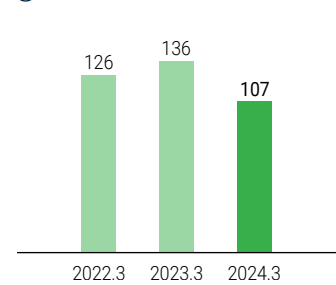
▶ 営業利益



▶ 経常利益

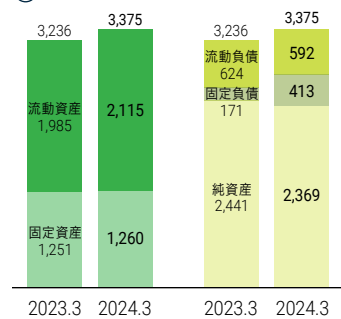


▶ 親会社株主に帰属する当期純利益

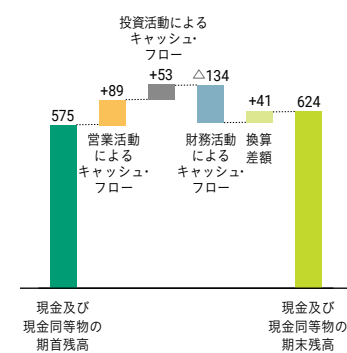


貸借対照表、キャッシュ・フローの推移（億円）

▶ 資産／負債・純資産



▶ キャッシュ・フロー



決算情報の詳細は、こちらをご覧ください



株主還元

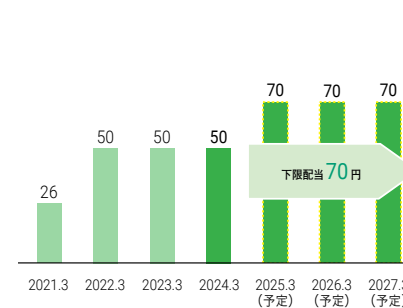
株主還元方針

株主の皆さまに対する利益還元が企業として最重要課題の一つであることを常に認識し、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆さまに対し安定的・継続的な利益還元を行うことを基本方針としています。事業の成長投資とともに、株主還元も強化し、バランスのとれた資金の使い方を行う方針です。

配当方針

2024年3月期 50 円／年
2025年3月期 70 円／年 増配予定

1株当たりの配当額推移（円）



自社株投資

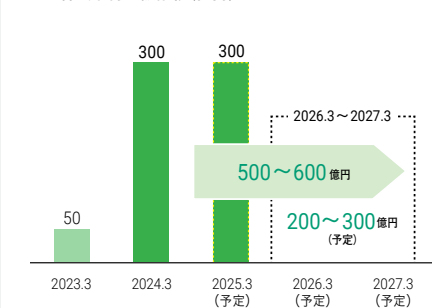
2024年5月14日発表(実施中)

買付予定金額 300 億円 上限

買付予定株式数 2,000 万株 上限

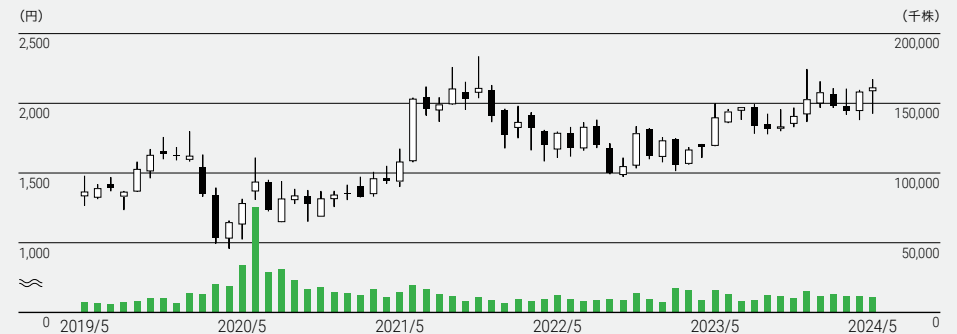
(取得期間：2024年5月24日～2025年4月30日)

自己株式取得金額推移（億円）



参考情報

株価の動き／株式売買高



株式情報は、こちらをご覧ください



Topics

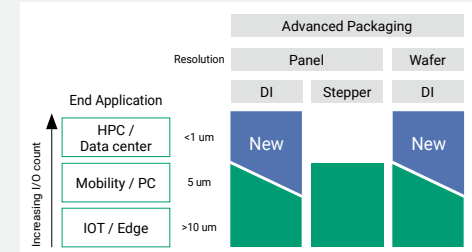
2023年12月～2024年5月にかけてのニュース



PICK UP ① アプライドマテリアルズ社*1と戦略的パートナーシップを締結～アドバンスドパッケージ向け露光装置のフルラインアップ化で生成AI向け半導体に貢献～

AIの活用拡大による処理負荷の急増により、半導体の高性能化によるパフォーマンス向上を目指す動きが広がっています。これに伴い、半導体アドバンスドパッケージ向け露光装置についても、さらに高度な線幅1ミクロン以下の配線技術が求められるようになります。今回、ウシオの20年以上のパッケージ基板向け露光装置の実績と、アプライドマテリアルズ社の高度なデジタル処理技術*2を融合させることで、これらの技術的課題に対応可能なデジタルリソグラフィ装置が、ウシオの半導体アドバンスドパッケージ向け露光装置の製品ラインアップに加わります。当社には既に強固な製品ラインアップが存在しますが、デジタルリソグラフィ装置が加わることで、今後のパッケージの高度化に対応した製品のフルラインアップ化だけでなく、お客様のあらゆるニーズに対しウシオグループとしてワンストップでの対応が可能となります（右図参照）。ウシオは、これらの取り組みにより半導体の進化に貢献していきます。

アドバンスドパッケージ向け露光装置のラインアップ（業務提携後イメージ）



*1 : Applied Materials, Inc.

*2 : アプライドマテリアルズ社が保有するデジタルリソグラフィ技術のこと

PICK UP ② IR活動が外部機関に評価され受賞

株主の皆さまをはじめ、多くのステークホルダーの皆さまに、ウシオへのご理解と信頼をさらに深めていただけるよう、情報の充実化や見やすさ等の向上に努めています。その一環として、今まで以上にスピーディーかつ分かりやすく情報をお届けできるように当社Webサイトの「投資家情報」サイトを大幅にリニューアルしたほか、統合報告書「Ushio Report 2023」では、ウシオの目指す姿の実現に向けた取り組みに関する開示を強化しました。その結果、IRサイトの主要な表彰である「大和インターネットIR表彰 2023」及び「日興アイ・アール 2023年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」において優秀賞及び最優秀サイトを、日本経済新聞社が主催する「第3回 日経統合報告書アワード」において優秀賞を受賞しました。今後もよりウシオの魅力や取り組みへのご理解を深めていただけるよう、企業価値向上につながるIR活動に取り組んでいきます。



PICK UP ③ 取締役の異動に関するお知らせ

当社では、幅広い分野での経験や知見を有する取締役を選任しており、2024年6月に新たな取締役を迎え入れましたのでお知らせします。



社外取締役
増山 美佳

選任理由

コーポレート・ガバナンス、人財・組織、M&A等の分野における豊富なコンサルティング経験及び見識と、経営・経済に関するグローバルな知見を有していることから、経営に対する助言及び業務執行の監督等の役割を適切に果たしていただくことを期待して、社外取締役に選任しました。



取締役
木下 誠

選任理由

金融機関における国内外での長年の経験を有し、当社入社後は人事部門の責任者及び人事総務・リスク管理等を担当する執行役員として経営に携わっています。その豊富な経験と知見に基づき、更なる企業価値の向上に向け、経営全般に対し適切な役割を果たすことができると判断し、取締役に選任しました。

会社概要 (2024年3月31日現在)

設立 1964年3月

資本金 19,556,326,316円

役員 (2024年6月27日現在)

代表取締役社長	朝日 崇文
取締役	中野 哲男
取締役	神山 和久
社外取締役	佐々木 豊成
社外取締役	松崎 正年
社外取締役	間下 直晃
社外取締役	増山 美佳
取締役(常勤監査等委員)	木下 誠
社外取締役(監査等委員)	杉原 麗
社外取締役(監査等委員)	須永 明美
社外取締役(監査等委員)	有泉 池秋

従業員数

ウシオ電機本体	1,713名
国内連結子会社	769名
海外連結子会社	2,957名
合計	5,439名

開示情報を適時お届けする
IRメール配信サービスは、
こちらからご登録ください



発行:ウシオ電機株式会社 IR室

〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020
<https://www.ushio.co.jp>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/ushio.group/>

社長メッセージ

業績ハイライト

主な財務指標/
株主還元

Topics

会社概要

6

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください



投資家情報



統合報告書 (Ushio Report 2023)



サステナビリティ



株主メモ

証券コード	6925	株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月	〈郵便物送付先〉	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。	〈電話照会先〉	0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)
1単元の株式数	100株	〈株式諸手続きのご案内〉	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※ やむを得ない事由により上記 URL において公告することが できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	〈よくあるご質問 (FAQ)〉	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

各種手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
・住所・氏名等の変更 ・単元未満株式の買取請求	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
・一般口座への振替	—	
・支払期間経過後の配当金		三井住友信託銀行